

# 極楽トンボの終わらない明日

高橋いさを 著

●劇団ショーマ

## 極楽トンボ

の終わらない明日

作・演出 高橋いさを

1988 6 4 14

Sat Thu

劇団ショーマ第13回公演

下北沢ザ・スナリ

場 所 Tel. 03-469-0511

1988.6.1 FRI 開演19:30

プレビュー 5000円

1988.6.2 SAT 19:30 開演20:00

1988.6.3 SUN 19:30 開演20:00

時 間 1800円

料 金 2000円

1988.6.24 SUN

前売開始

1988.6.24 SAT 19:30 開演20:00

1988.6.25 SUN 19:30 開演20:00

1988.6.26 MON 19:30 開演20:00

1988.6.27 TUE 19:30 開演20:00

1988.6.28 WED 19:30 開演20:00

1988.6.29 THU 19:30 開演20:00

1988.6.30 FRI 19:30 開演20:00

1988.7.1 SAT 19:30 開演20:00

1988.7.2 SUN 19:30 開演20:00

1988.7.3 MON 19:30 開演20:00

1988.7.4 TUE 19:30 開演20:00

1988.7.5 WED 19:30 開演20:00

1988.7.6 THU 19:30 開演20:00

1988.7.7 FRI 19:30 開演20:00

1988.7.8 SAT 19:30 開演20:00

1988.7.9 SUN 19:30 開演20:00

1988.7.10 MON 19:30 開演20:00

1988.7.11 TUE 19:30 開演20:00

1988.7.12 WED 19:30 開演20:00

1988.7.13 THU 19:30 開演20:00

1988.7.14 FRI 19:30 開演20:00

1988.7.15 SAT 19:30 開演20:00

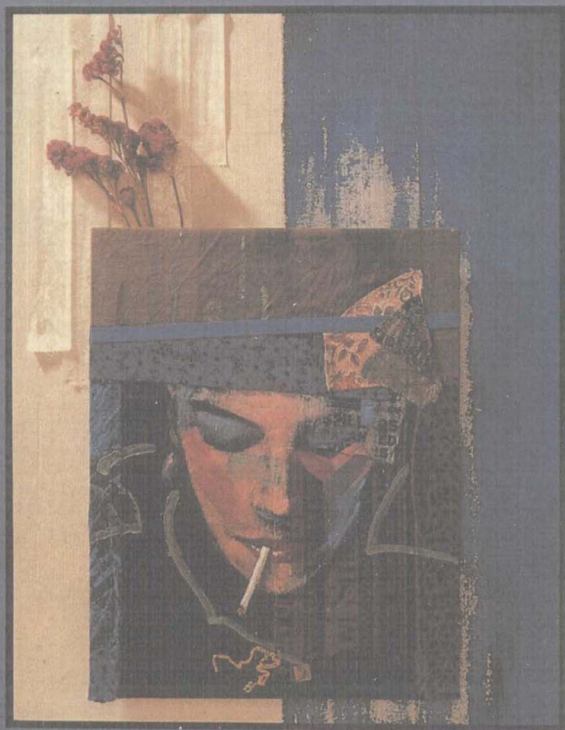
1988.7.16 SUN 19:30 開演20:00

1988.7.17 MON 19:30 開演20:00

1988.7.18 TUE 19:30 開演20:00

1988.7.19 WED 19:30 開演20:00

1988.7.20 THU 19:30 開演20:00



劇団ショーマ

劇団ショーマ事務所 有 ノースウエスト

035654748

高橋いさを

劇作家・演出家。

一九六一年、東京生まれ。

一九八一年、日本大学芸術学部演劇学科在学中に「劇団ショーマ」を結成。

以後、同劇団の作・演出を担当する。

主な作品に――

『ある日、ぼくらは夢の中で出会う』（『ボクサア』併録）『けれどスクリーンいつばいの星』（以上、論創社刊）などがある。

「超虚構シリーズ」と題した虚構と現実がトリ

ッキーに交錯する劇作が続けている。

〈劇団事務所〉

千一七一

東京都豊島区南長崎四・八一五

（有）ノースウエット

〇二―五六五―四七四八

カパー・イラスト―采澤聡

宝島モダンクラシックプレイズ ❶

## 極楽トンボの終わらない明日

発行日――一九九〇年一月十七日 初版

著者――高橋いさを

装丁――東幸見

発行人――蓮見清一

発行所――J I C C 出版局

〒102 東京都千代田区麹町五十五

☎営業〇三―三三四四六二、編集〇三―三三四二六八八

郵便振替〒東京七〇・七〇八二九㈱ジック

印刷所――㈱廣済堂

©1990 Printed in Japan

落丁・乱丁本はお取り替えないいたします

ISBN4-88063-785-8

モダン  
クラシック  
プレイス

①

---

極楽トシボの終わらない明日

---

高橋いさを

登場人物▼

- 
- 囚人1 (ゴロさん／殺人罪)  
囚人2 (ホクロ／強盗罪)  
囚人3 (マッチ／放火罪)  
囚人4 (オシヨー／窃盗罪)  
囚人5 (ハナビ／殺人未遂罪)  
囚人6 (ゴンスケ／器物破損罪)  
囚人7 (矢沢／殺人罪)  
看守1 (伊丹)  
看守2 (渋沢)  
キャスター (秋元)  
所長 (舟崎)

\* 囚人6と所長、及び囚人7と看守2は、それぞれ  
同一の俳優が演じるのが望ましい。

---

私はいつも客席で芝居を観る。  
開演直前に、さり気なく観客を装っ  
て客席にまぎれ込むわけだが、誰かに  
注目されているのではないかという不  
安が高じ、最近はサングラスとかつけ  
髭とかつけて変装しているの、他の  
誰よりも目立っているはずである。

## プロオグ

東京湾に浮かぶ北沢刑務所——通称ジェイルKITAZAWAは、五年前に建造された私設の刑務所である。

暗くウサン臭い従来の刑務所のイメージを刷新するため、「明るく楽しい、ファッション性に富んだ刑務所作り」をコンセプトに設計されたこのジェイルKITAZAWAは、数ある刑務所のなかでもその現代性において特徴的だった。

設計のトータル・ヴィジュアル・デザイナーには建築家のガウディ磯崎氏<sup>ししきしや</sup>があたり、白を基調とした外観は、「白亜の殿堂」と呼ぶにふさわしい。瀟洒<sup>しょうしや</sup>なたたずまいを見せていた。しかも、刑務所全体を神の視点で鳥瞰すると、建造物の配置がジェイルの「J」、KITAZAWAの「K」を構成するという——磯崎の遊び心がにくらしい。

刑務所の四方をとり囲む壁面の内側には、ポップ・アーティストたちが原色

M1「愛がすべてを」(ホイットニー・ヒューストン)  
ただ状況を説明するだけでは面白くないので、文脈の切れ目切れ目に音楽が上がり、台詞にアクセントをつけてみた。大切なのは「台詞を相手に踊る」という心だ。

をふんだんに使ってサイケデリックな壁画を大胆に描き、囚人たちの目を楽しませた。

外観と内観のとてもないギャップが、この空間においては奇妙に調和しあい、美術評論家のマルセル東野氏をして「ポストモダンの最も重要な成果のひとつ」と言わしめた。

また、このジェイルKITAZAWAでは、更生の手段として囚人たちに芸術活動に参加することを義務づけており、囚人たちは適度な労働に加え、音楽、美術、文学、映画、演劇等の研究及び創造活動に従事することを強制された。

同時に、刑務所側は所長以下数名の幹部により芸術活動促進委員会を設け、毎年十一月にアート・フェスティバルを開催することを決定——そのフェスティバルにおいて優秀な成績を収めれば、その成果に見合うだけの減刑が認められるという「ケーキ・カット・システム」を制定した。

この制度の導入により、いまひとつ盛りあがりに欠けた芸術活動は一気に活発化し、刑務所内には多くのサークルが誕生——「スペイン・ギター研究会」から「日本舞踊研究会」、はては「ミュージカル同好会」までバラエティに富んだ表現活動が展開した。

その刑務所内サークルのひとつに「ストロベリー・フィールズ」という名の演劇集団があった。



囚人1▼

(出てくる)

看守1▼

南部五郎。早稲田の演劇科を卒業した本格的な演技派殺人犯。人を殺す演技の迫真力は誰よりも説得力がある。

囚人1▼

(架空の女の首をしめて) ユキエ、許してくれエ!

看守1▼

殺人罪で懲役十五年。通称ゴロさん。

囚人2▼

(出てくる)

看守1▼

赤坂憲一。もとファッション・モデル。ある日、原因不明のホクロがおでこに出現しモデルを失業、食うに困つてパン屋を襲撃する。

囚人2▼

(拳銃を構えて) パンを出せ!

看守1▼

強盗並びに傷害の罪で懲役十年。通称ホクロ。

囚人3▼

(出てくる)

看守1▼

朝倉亮介。もともと絵画きが本業だった。ある時、炎の絵をかこうとしたがリアリティがつかめず、自分の家に火をつけた前歴の持ち主。

囚人3▼

(火をつけて) ファイヤー!!

看守1▼

放火罪で懲役八年。通称マツチ。

囚人4▼

(出てくる)

看守1▼

別所聡。もと浄土真宗の坊主見習い。さい銭はもとより香典を片っ端からチヨロまかす窃盗常習坊主。

囚人4▼

南無阿弥陀仏。

囚人たちの衣装は、色ちがいのボーダー・シャツを採用したが、何せ「明るく楽しい、ファッション性に富んだ刑務所」である。  
さらなる工夫を期待したいものである。

看守ー▼ 窃盗罪で懲役五年。通称オシヨー。

囚人5▼ (出てくる)

看守ー▼ 藤村さゆり。もとヤクザの情婦。「男はやっぱ人の一人も殺してなきゃ一人前じゃないわよ」と公言してはばからない威勢のいい下町っ子。

囚人5▼ 火事だ！ 祭りだ！ 喧嘩だ！ みこしだ！

看守ー▼ 殺人未遂、並びに傷害の罪で懲役八年。通称ハナビ。

そして、私はこの劇団の顧問、ジェイルKITAZAWA看守、伊丹敏晴。以上がジェイルKITAZAWA内、演劇集団ストロベリー・フィールズの面々である。

囚人たち▼ アメンボ赤いなアイウエオ！

看守ー▼ 今日は、新しい囚人がここジェイルKITAZAWAの門をくぐる入所式。

新入所者歓迎の催しが、刑務所内のさまざまなスポットで華やかに行なわれていた。

が、そんな華やかさとは裏腹に、各サークルの看守を中心としたスカウトマンたちは、新鮮で将来性のあるニューフェイスの囚人に誰よりもはやくツバをつけ、自らのサークルに引きずり込んじまうべく、虎視眈々と目を光らせていた。

「アメンボ……」というのは、俳優の発声訓練用の例文で、以下「柿の木、栗の木カキケケコ」と続く。一般ピープルの方々が、「劇団」という組織に不気味なイメージを抱いていくのは、こういうことを一生懸命やるアホウがいるからだろう。



# 1

新人所者歓迎・勧誘を数々のサークルが行なっている。

囚人たち▼

囚人ー▼

ようこそジエイルKITAZAWAへ！

えーただ今、東独房脇四十三番レクレーション・ルームにおいて、演劇集団ストロベリー・フィールズの新人所者歓迎公演を行なっております。演目はサミエル・ベケット作『ゴドーを待ちながら』、ウェイティング・フオー・ゴドーであります。

一九五十年代、フランスは花の都パリのバビロン座において初演されて以来、全国津々浦々で大評判となりましたが・シアター・オブ・アブザード——不条理の演劇の決定版！

めでたく入所された今日のよき日の思い出に、不条理の演劇を御用意いた

極楽トンボの終わらない明日

「ゴドー……」を上演している囚人、というのが、この芝居を書く上でのファースト・モチーフだった。が、この芝居を上演してまもなく、ビデオで『ウィーズ／塀の中からブロードウェイ』という映画を観たら、そこでも囚人が「ゴドー……」を上演していた。富士に月見草が似合うように、刑務所に「ゴドー……」はよく似合う。

しました。入場料はな何と無料！ただであのサミエル先生の不条理が  
 拝見できてしまうという、こりや一生に一度の大出血の重傷だ！……わは  
 ははは！面白くない。わたしは面白くない。しかし、芝居は面白い！ダ  
 マされたと思って四十三番レクレーション・ルームへ——まだ時間はあ  
 る！さあこぞつてくり出そう！

囚人3▼

その芝居、そんなに面白いの？

囚人1▼

面白いも何も近代演劇のドラマツルギーを根底からひっくり返したって強<sup>ぶ</sup>  
 者だ。面白くないわけがない。

囚人4▼

歌あるの？

囚人1▼

歌はあいにく切らしている。しかし、その代わりに不条理がある！

囚人4▼

不条理って何？

囚人1▼

平たく言えばストリップのようなものだ。

囚人3・4▼

ストリップ!? 裸になるの!?

囚人1▼

なるなる。若いムチムチの女刑囚が、いつまでもやってこないゴドーさんに  
 しびれをきらして、ついにローソク・ショーを始めてしまうというのがこ  
 の物語の大筋なんだ。

囚人3・4▼

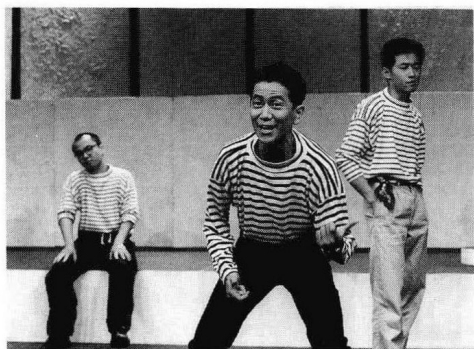
へえー、そりや面白そうだ。

囚人4▼

で、その後はどうなんの？

囚人1▼

ローソク・ショーの次はもちろん——おっとそれは観てのお楽しみ！さ



あとうぞく！

囚人3 ▼

面白そうじゃないか！

囚人4 ▼

うん。スゴク面白そうだ。行ってみようじゃないか！

囚人3 ▼

うん。行こうく！ (二人、去る)

囚人1 ▼

はやく行かないといい席がなくなっちゃうよ！

ようこそジェイルKITAZAWAへ！ あ！ そのヒゲ顔づらのオニサン！

刑期長いんじゃない？ 長いんでしょ？ 当たり！ 観くわてつてよ、

お願い。刑期の長い人は優先してんだから……じゃ観くわなくてもいい。ここに囚人番号と名前だけでもいいから書いてつてよ。ね。いいじゃない、そ

のくらい。何もとつて食おうつて言つてんじゃないんだから。ねえ……ねえつてば！……何だよ、エラソーに。タコ！ カッコつけんじゃねえよ、犯

罪人のくせして。

囚人3・4 ▼

(出てきて) ……。

囚人1 ▼

何だよ。

囚人4 ▼

いや……。

囚人3 ▼

何かさ——。

囚人1 ▼

……。

囚人3 ▼

オレたちさ——。

囚人1 ▼

……。

極楽トンボの終わらない明日

囚人3▼

全然人気ないみたいだね。

囚人1▼

そんな弱気なこと言つてどおすんだよ。

囚人3▼

でも……。

囚人1▼

でも何だよ？

囚人3▼

いくらオレたちがサクラやつて盛りあげたつて、誰も四十三番レクレイ

囚人1▼

ション・ルームに行つてないみたいだぜ。

囚人4▼

行つてるじゃねエかよ。何人もそっちへ歩いてつたぜ。

囚人4▼

あれはちがう。

囚人1▼

何がちがうんだ？

囚人3▼

大ホールだよ、大ホール。

囚人1▼

大ホール？

囚人4▼

うむ。

囚人1▼

大ホールで何やつてんだ？

囚人4▼

クレイジー・フォックスのコンサートだ。

囚人1▼

クレイジーつて——あのキツネヤローの？

囚人4▼

うむ。

囚人1▼

そう言やあ最近よく所内有線でかかつてるな、何つてつたつて、(歌う)ムー

囚人3▼

ン・ライト、行け行け——。

囚人3▼

「ムー・ン・ライトに姦<sup>や</sup>つちまえ！」。

囚人1▼

あ、それぞれ。婦女暴行をテーマに歌ったわりには結構いい線いつてるよな、あの曲。

囚人3▼

やつぱりそうだよなあ。若い囚人は不条理なんかよりロックン・ロールの熱いビートだよなあ。オレが奴らの立場にいたらやつぱり刑務所まで来て不条理なんか見たくねエもの。オレさ、未だによくわかんねエんだけどさ、不条理っていったい何なの？

囚人4▼

さあ。

囚人3▼

ふつうさ、誰かと待ちあわせしてさ、一時間待っても来なかつたら帰らねエか？

囚人1▼

そういう即物的な問題じゃねエんだよ。

囚人3▼

意地になってるとしか思えねエよ、ホント。こんなに待ったんだから代わりに洋服でも買ってもらおうって魂胆がみえみえじゃない。嫌な女だぜ、全く。(マツチをする)

囚人1▼

マツチをするな。何か不満があるとすぐ火に頼ろうとするんだから。消せよ。消せつて。

囚人4▼

(架空の新人所者に)いらっしやいませ！ ようこそジェイルKITAZA WAへ！

囚人1・3▼

……。

囚人4▼

……逃げた。妙な奴だ。

極楽トンボの終わらない明日

かつて、この世界は意味あるものだと信じていた頃の自分が懐しい。

囚人3 (マツチをする)

囚人1 (溜め息をつくが、氣をとり直してにこやかに) えーただいま四十三番レクレーション・ルームにおいて、演劇集団ストロベリー・フィールズの新入

所者歓迎公演『ゴドーを待ちながら』を上演しております。同時に新しい才能も広く求めています。大切な刑期をどぶに流してみようとお考えの勇氣ある新入所者の方はこちらです。また幸せになりたくない方、貧乏人になりたい方は演劇に決まりです！ どうぞふるって御応募ください！

看守1 (出てきて) 何ちゅう勧誘の仕方してんだよ！

囚人1 ……。

看守1 これじゃ客が来ないわけだよ。

囚人3 (壁にボールを当てながら) そんなこと言われたってこつちだつて一生懸命

やってんだぜ。

看守1 (ボールをとりあげて) やつてねエじゃねエか！ ドタマがち割るぞ。

囚人4 勧誘したいのはヤマヤマだが、私が声をかけるとみな逃げる。

そりやスゴクよくわかるけどさ、お前ら一応役者だろ？ 口八丁手八丁でうまいこと言つてダマくらかして、劇場に連れこんじまえばいいじゃねエか。

囚人3 でも不条理なんか見せたつて……。

看守1 内容なんてこの際どうでもいいんだよ。とにかく劇場に足運んでもらつて、

芝居觀でもらわなきやハナシにならねエだろうが。觀でもらわなきやオレたち存在しないも同然なんだぞ。

囚人4▼

役者とはつくづく因果な商売だ。うむ。

看守1▼

オシヨーさん、何感心してんの？ 全然商売になってないでしょ？ 新しい觀客、開拓するためにやってんのに全然客が来てねエんだから。(架空の新人所者に) おい！ そのデカイの。四十三番レクレーション・ルームへ今すぐ行け。いいから行け。ゴタクは後だ。はやくしろ！ 走っていけ、走って。テメエ……行かねエと独房に叩きこむぞ！……デカイな、あいつ。ダンナもデカイ。

看守1▼

……。

囚人4▼

(祈る)

看守1▼

座禪でもくんでろ。(囚人1に) で、勧誘の方はどうだ？

囚人1▼

まあ……ね。

看守1▼

どれどれ——あれ？ 一人も署名してないじゃない。

囚人1▼

まあ——その下手にね、芝居できない人をね、入れてしまふよりね、だあれも来ない方がね、さつぱりしていいということもあるわけだね。わはは。

看守1▼

何がわははだよ。お前らさ、ホントにこの刑務所から出る気あるのかよ。アート・フェスティバルでケーキ・カットしようと思つてんのかよ。

囚人1▼

思つてるよ。

恋人から神様まで、それを誰かが見ていくれるからこそ、人間はガンバレルものなのだろう。誰かに見られていることを前提としない無償の行為というのに、私はほとんど興味はない。この人間觀は實際疲れるが、まだ後悔はしていない。

看守ー▼

思ってるならもつと気合い入れてやれよ。(架空の新人所者に) おい!

囚人ー▼

おい!

看守ー▼

その坊主頭!

囚人ー▼

ハゲ頭!

囚人4▼

何かな?

看守ー▼

お前じゃねえんだよ。

囚人ー▼

座禪くんでろ。

囚人4▼

……。

看守ー▼

お前だ。

囚人ー▼

そうお前だ。

看守ー▼

新人所者だな? よし。東独房脇の四十三番レクリエーション・ルームへ今すぐ行け。

ぐ行け。

囚人ー▼

友達五人連れて行け。

看守ー▼

面白エ芝居やってるから観に行つてこい。

囚人ー▼

いいか五人だぞ。わかつたな?

看守ー▼

四十三番だぞ。

囚人ー▼

四十二番じゃねえぞ。

看守ー▼

四十二番は日本舞踊やってるぞ。

囚人ー▼

花柳流だぞ。まちがえるなよ。



囚人3▼

おい！

看守1▼

……。

囚人3▼

……。

看守1▼

いいよ。どんどんやれ。虎の威をかることを許可する。

囚人3▼

おい！ そのバカデカイの！ お前だよ、お前。デカイからつてな、エバ

ルんじゃねエよ。へへん！

看守1▼

アホウ！ ただののしれつて誰が言っただ。芝居、観に行かせるんだよ。

囚人1▼

なあ。

看守1▼

何だ。

囚人1▼

『ゴドー』が。

看守1▼

ゴドーがどうした？

囚人1▼

始まつてるぜ、もう。

囚人3▼

おい！ そのメガネ！ そうお前だ。何だ、そのチャラチャラしたカツコ

は？ あれ？ お前、どっかで見たことあるぞ。

看守1▼

(気づく) バカ。所長だ、舟崎所長。

囚人1・3・4▼

(気づいて) ……。

囚人3▼

こつち来るぜ。どうしよう！

看守1▼

あわてるな。準備しとけよ。いいか？

囚人たち▼

(うなずく)

極楽トンボの終わらない明日

